

令和2年度授業者の自己評価結果について

- 1 実施日：2月中旬
- 2 延べ科目数：57科目（57人）
- 3 表の見方：各項目の上段は%（四捨五入）、下段は延べ人数

	項 目	評 価（○）			
		1 そう思う	2 だいたい そう思う	3 どちらか という そうは思 わない	4 そうは思 わない
学習集団 づくり	① 互いに認め合いながら学習できる学習集団づくりができていた。	33% 19人	54% 31人	12% 7人	
目標の設 定	② 授業の系統性を考え、シラバスに位置づけ、ねらいや目標を生徒に示した上で臨んだ。	30% 17人	63% 36人	7% 4人	
	③ 生徒の実態を十分に考慮して、授業を構成するなど、計画をたてて行った。	31% 18人	60% 34人	8% 5人	
	④ 授業のねらいや目標が達成できた。	11% 6人	70% 40人	19% 11人	
教材・教 具の工夫 等	⑤ 準備した教材・教具や授業の展開のしかたは適切であった。	17% 10人	65% 37人	17% 10人	
発問・指 示の適切 さ	⑥ 生徒の理解を助けるように、発問や指示を適切に行った。	21% 12人	70% 40人	8% 5人	
活動の場 の構成	⑦ 生徒は、意欲的に学習に取り組んでいた。	35% 20人	63% 36人	2% 1人	
	⑧ 授業に集中しやすい環境や雰囲気形成できた。	32% 18人	56% 32人	11% 6人	2% 1人
	⑨ 一方的な説明だけでなく、生徒が主体的に活動する場面を設けた。	32% 18人	54% 31人	12% 7人	2% 1人
	⑩ 生徒の発表などに対して、意欲を引き出すように働きかけた。	16% 9人	72% 41人	9% 5人	3% 2人
個の学習 の成立	⑪ 生徒一人ひとりの学習状況の把握に努め、必要な支援を行った。	12% 7人	70% 40人	16% 9人	2% 1人

4 分析

- (1) 高い自己評価（1、2が90%以上）項目：②、③、⑥、⑦
- (2) 低い自己評価（3、4が10%以上）項目：①、④、⑤、⑧、⑨、⑩、⑪
- (3) 改善が必要な評価（3、4が15%以上）項目：④、⑤、⑪

※生徒の学びの状況を正確に把握し、「授業のねらい・目標」を明確にししながら「授業の展開」を工夫し、「個の学習の成立」を目指す支援をする必要がある。